

川崎市障害者地域自立支援協議会 暮らし（短期入所）部会報告

1 平成24年度 暮らし（短期入所）部会設置経緯・目的

・暮らし（短期入所）部会設置経緯

各区の自立支援協議会で進めている障害がある方への支援上の様々な課題の整理から、短期入所利用の使いづらさによって障害のある方やその家族が安心して地域生活を送ることに支障があることが具体的な事例を通し明らかになりました。川崎市では以前から、短期入所の使いづらさに関連する事について、利用者やその家族からも意見や要望が事業者及び川崎市にあがっていたこともあり、今年度の暮らし部会の取組テーマとして、より具体的に原因を解明し解消をしていくことが市自立支援協議会において共有されました。

・暮らし（短期入所）部会の目的

「短期入所利用に使いづらさを抱えている当事者・家族からの声を頂きながら、その原因を解明し解消すること」

2 暮らし（短期入所）部会活動内容

○部会開催日

- 【準備会】 平成24年11月2日（金）
- 【第1回】 平成24年12月5日（水）
- 【第2回】 平成24年12月25日（水）
- 【第3回】 平成25年1月29日（火）
- 【第4回】 平成25年2月20日（水）
- 【第5回】 平成25年3月12日（火）

○短期入所制度の現況調査

1 短期入所事業者への実態調査

調査方法：メールにてアンケート用紙を送信しメール回答の方法で集約

2 利用者意向調査：アンケート

調査方法：日中通所事業所及び特別支援学校へアンケート票を送付し、各事業所から利用者又はその家族にアンケート票を渡して頂き、回答したアンケート票を送付元の事業所又は学校に提出のうえ、事務局へ未開封のまま回答を転送する方法を採用

3 利用者意向調査：インタビュー

調査方法：アンケート調査を補完するため、障害のある本人、障害のある方の家族、障害のある方に関係する団体等を対象としてインタビュー調査を実施
さらに、必要に応じて個別調査も実施。

インタビュー先	参加者	日時	訪問者
グランドデザインを考える会	7名	1月16日 11:00-12:30	野原、
川崎市重症心身障害児者を守る会	3名	1月16日 11:00-12:30	滝口
豊かな地域療育を考える連絡会	10名	1月17日 10:45-12:00	渕上副部長、山口
県立中原養護学校PTA	11名	1月18日 10:35-12:35	雨宮部長、山口
生活訓練支援センターデイケア利用者	3名	1月22日 10:15-11:30	関野委員、吉見委員
知的障害者親の会	17名	1月22日 11:30-12:30	渕上副部長、山口
くさぶえの会	11名	1月24日 11:15-12:40	山口、滝口
もみの木寮ショートステイ利用者	3名	1月24日 14:00-15:10	関野委員、山口
肢体不自由児親の会	11名	1月25日 11:00-12:30	雨宮部長、関野委員、滝口
サポートセンターロンド（短期入所事業）利用者	1名	2月19日 13:35-15:25	雨宮部長、関野委員、滝口
サポートセンターロンド利用者（重心で、医療的ケアの必要な方）	3名	2月27日 10:30-12:00	雨宮部長、関野委員、山口

4 他都市事例の調査

- (1) グループホームにおいて空床型事業を活用したショートステイ施設
場所：千代田区立障害者福祉センターえみふる（千代田区神田駿河台2-5）
調査日：平成25年2月13日（水）
- (2) 医療的ケアが必要な当事者も利用可能な多機能型施設のショートステイ
※生活介護・共同生活介護・短期入所
場所：社会福祉法人 訪問の家「朋」 多機能型拠点「郷」さと
（横浜市栄区桂台中4-7）
調査日：平成25年3月5日（火）

5 部会開催の経過

第1回くらし（短期入所）部会

日時：平成24年12月5日（水）9時～12時

場所：ちどり

- 1 会長・副部長の選任
- 2 部会の役割分担
- 3 部会の進め方・形式等について
- 4 報告事項
 - (1) 国における短期入所事業の方向性

(2) 川崎市における短期入所事業の現況と方向性

5 協議事項

(1) 短期入所事業所からの現況報告

(2) 当事者・保護者へのインタビューの進め方

第2回 暮らし（短期入所）部会

日時：平成24年12月26日（水）13時30分から17時45分

場所：ちどり

1 具体的な今年度の取組の到達目標

短期入所に係る利用者及びその保護者のニーズに関する実態把握を客観的かつ体系的に整理する。量的な把握と質的把握の両面からアプローチして表出していく。

また、実態把握の結果表出されたニーズから今後あるべき方向性を見出す。

2 実態把握の方法

(1) 利用意向調査（アンケート調査とインタビュー調査）

※インタビュー調査は、アンケート調査内容を掘り下げていく『調査の深度』を深める観点と、アンケート調査では把握しきれない多様な方々の実状を捉える『調査の幅』を広げていく観点の2点から行う。グループ・個別インタビューを組み合わせ実施していく。

(2) 実態把握の手順

アンケート調査依頼先：市内全通所施設・特別支援学校

通所施設74施設 約2600人の対象者

地域活動支援センター59施設 約1000人の対象者

特別支援学校6校 約540人の障害児の保護者

(3) 団体ヒアリング先について

第3回 暮らし（短期入所）部会

日時：平成25年1月29日（火）13時30分から16時50分

場所：ちどり

1 利用者意向調査結果の報告について

(1) アンケート調査票回収状況（中間発表）

146施設に配布し114施設からの返送があった。（中間回収率43.8%）

回収した調査票のデーター入力を行っていく。

(2) インタビュー調査結果

9団体にインタビュー調査を実施し、必要に応じて個別調査も実施。

2 短期入所を必要とする人への支援方法について（今後の方向性）

(1) アンケート調査から明らかになってきたニーズや課題

- ・短期入所を「知っている」人は6割に留まり、特に精神障害は36%と認知度が低い。
- ・家族（介護者）の休息のための利用が3割と最も多いが、「希望どおり利用できていない（希望日の変更を含む）」人は6割で、特に医療ケア有の場合8割と高い。
- ・申込方法（直接電話）、地域的な偏り、送迎等、多くの課題があり使いづらい状況。

(2) インタビュー調査から明らかになってきたニーズや課題

- ・受け入れ枠が少なく、緊急時ですら使えなかったという多数の声。
- ・特に医療ケア有が厳しい。北部に1施設のみという状況をなんとかして欲しい。
- ・相談できる人の確保、利用調整や情報提供の仕組みづくり、送迎等、要望は切実。
- ・身近な地域で、普段から支援関与がある職員が対応してほしい（通所事業所の活用）

第4回 くらし（短期入所）部会

日時：平成25年2月20日（水）13時30分から16時30分

場所：ちどり

1 アンケート調査・インタビュー調査の結果等の詳細報告について

- ・通所施設・地域活動支援センター・特別支援学校（合計2010人、回収率47%）
- ・アンケート項目ごとの結果について
- ・自由記述について（実際の使いづらさについて、当事者・保護者から頂いた記載内容）
- ・延長支援に関する通所施設向けアンケート結果について（51施設中39施設から回答）
最大の対応した時刻（夜間帯）・利用実績・利用方法等
- ・千代田区のショートステイ施設訪問報告
※グループホーム併設のショートステイ事業所
- ・今後の検討（まとめ）の方向性について

第5回 くらし（短期入所部会）

日時：平成25年3月12日（火）9時から12時20分

場所：ちどり

1 部会検討・調査のまとめについて

- ・（案）障害のある方の短期入所利用に係る調査・検討報告取りまとめについて
- ・医療的ケアが必要な当事者も利用可能な多機能型施設のショートステイ
社会福祉法人 訪問の家「朋」・横浜市多機能型拠点 「郷」さと 調査報告
- ・現況調査を踏まえた検討について（論点整理）
（1）限りある資源でどのようにベッドコントロールしていくか？
（2）医療ケアが必要な人の対応をどうするか？
（3）別の支援方法をどのように考えるか？
（4）資源を拡充していくにはどうするか？
（5）短期入所利用に係る送迎について
- ・（案）障害のある方の短期入所利用に係る調査・検討報告とりまとめ
自由記載のまとめ方について

6 部会で整理してきたこと

- ①利用者及び利用者の保護者の短期入所に係るアンケート調査及びインタビュー調査による意見の表出とその整理
- ②意見表出されたものから、短期入所制度改善に向けた論点の整理
 - ア 「緊急」の捉え方、自立のための訓練、レスパイト等の整理
 - ・何が緊急なのか？
 - ・誰が判断するのか？
 - イ ベッドコントロールの仕組みづくり
 - ・申し込み方法の検討
 - ・機関相談がコントロールを担う可能性の検討
 - ・施設間で顔の見える関係づくり（空き情報はネットではなく）
 - ウ 利用者情報のインテークのあり方
 - ・登録方法は？ 誰がインテークを行うのか？
 - ・施設が知りたい利用者情報とは？ 受け入れに必要な共通帳票とは？
 - エ 資源を拡充するには？ 特に医療ケアが必要な人の対応は？

- ・訪問看護師との連携、介護職による医療的ケアの可能性
- ・どのような条件ならば、通所施設が受け入れ（延長）可能なのか？

○今後の当該課題の検討の方向性

- ・自立支援協議会としては、これまで主観的に短期入所制度が利用しづらいという声だったものを、量と質の面から当事者及びその保護者から短期入所にかかる意見の表出と整理を行い、制度改善に向けた方向性の整理まで行うことができた。
- ・次年度以降は、次のステップとして、今回の部会で当事者及びその保護者を入れた検討ができなかったこともふまえ、今回の部会メンバーを基本に当事者とその保護者も入れたかたちで、行政が主催の会議体を形成し、緊急性の考え方や利用の申込方法の整理など、事業者間で共通で決めていくこと、独自で決めていくことなどの場合分けをしたうえで、必要に応じて制度が変更できるよう案を協議し、決定していく段階となるよう考えている。

●くらし（短期入所）部会委員

※会長・副会長以外50音順

	氏名	所属
1	雨宮 由紀枝（会長）	日本女子体育大学体育学部教授
2	淵上 正道（副部会長）	川崎授産学園生活支援センター
3	荒井 恒夫	障害者生活支援センターようこう
4	新井 通浩	川崎市れいんぼう川崎
5	山本 望	
6	伊藤 忠彦	障害者等生活施設桜の風
7	橋本 和弘	
8	浮谷 祐土	障がい者支援施設みずさわ
9	北嶋 緒月	川崎市柿生学園
10	國信 勝裕	ソレイユ川崎
11	今野 純子	
12	酒井 路子	障害者相談支援事業所 つくし
13	島田 珠美	川崎大師訪問看護ステーション
14	古川 真理	
15	関野 岳史	川崎市障害計画課施設支援担当
16	高松 信	たかつ生活支援センターまんまる
17	谷 みどり	サポートセンター Rond
18	寺下 敏幸	川崎授産学園 つばき寮 つつじ工房
19	野村 謙二	しいのき学園
20	本間 佳	ライプリー渡田

●事務局

1	滝口 和央	川崎市障害計画課計画推進担当
2	野原 篤	障害者生活支援センター柿生
3	山口 孝子	川崎市障害計画課自立支援担当